

発行所：
公益社団法人 長崎県看護協会
〒854-0072
長崎県諫早市永昌町23番6号
TEL (0957) 49-8050(代)
FAX (0957) 49-8056
発行責任者：日野出悦子
印刷：株式会社クラフィット

nagasaki nursing association

理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供を目指します

新年のごあいさつ	2
今年の抱負インタビュー	3
「看護の将来ビジョン2040について」	4
性教育セミナー取材してきました	5
地区支部だより	6
令和7年度 第1回・第2回 施設会員代表者・看護管理者等交流会 報告	8
2025 看護への道フェアを開催しました	10
令和7年度 長崎県看護学会学術集会を開催しました	11
病院紹介 独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター	12



2026年 新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。皆さまには、お健やかに新春をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。また、日頃より長崎県看護協会の事業推進にご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

昨年の看護界の大きな話題のひとつに、日本看護協会が、2025年6月、「看護の将来ビジョン2040～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を公表したことであります。少子高齢化、生産年齢人口減少、DXや働き方改革、気候変動による健康や栄養への影響など、看護を取り巻く環境は、今、大きく変化している中、日本看護協会は、2040年に向けて、看護がめざすものとして、【その人らしさを尊重する生涯を通じた支援】【専門職としての自律した判断と実践】【キーパーソンとしての多職種との連携】の3つを掲げ、動き始めています。

これまでも、看護職は医療と生活、双方の視点を生かし多様な場所で活躍していますが、担い手不足、高齢者の更なる高齢化、複合的なニーズの多様化を背景に、少子化の進行による医療人材不足を見据え、多職種協働によるチーム医療の推進、地域完結型の医療・介護の提供体制の構築、IT化や看護DX推進等、これまで以上の充実が求められています。その実現のためには、看護の本質を忘れることなく、看護職の一人ひとりのウェルビーイングの向上を重視し、看護人材の確保と資質向上に向け、使命を果たすことが重要であります。

看護職一人ひとりが安心して役割を発揮し、県民の健康づくりに貢献できるよう、会員の皆様の声を反映しながら、2040年に向け本年も進めてまいりますので、皆様のご理解と一層のご支援をよろしくお願いいたします。

今年は午年です。社会状況は更に変化していくかと思いますが、本協会は、午年にちなんで、役員及び職員一丸となって、力強く、目標に向かって突き進む一年にしたいと思います。

最後になりますが、会員の皆さまの本年のご健勝とご繁栄を祈念し、本協会の事業活動に対する引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

会 長 日野出 悦子

副 会 長 木下 日出美、井口 恵美子、中尾 優子

専務理事 余里 康子



今年の抱負 インタビュー

午年



医療法人 健正会
大久保病院

野口 雅代

コロナ禍で自由に出かけたりすることができなくなり、こんなにも旅行や趣味活動ができなくなることがストレスになると気づかされました。

インフレが始まり物価高騰していますが、できるだけプライベートが充実でき、仕事でも楽しく過ごせる良い年にしたいと思います。



公益社団法人
長崎県看護協会

近藤 郁恵

抱負にあたり、これまで約半世紀元気に生きてこられたなあと、夫や両親、家族、友人、職場の同僚やペット達に感謝したいです。今年一年は、(子どもや愛犬に) あまり怒らず、おもしろく過ごし、新しいことに1つ挑戦します！



医療法人 慈恵会
小江原中央病院

辰巳屋 きらり

育児休暇後、時短勤務を経て現在は常勤で勤務しています。「育児と仕事」を両立できるよう家族や部署スタッフの協力のもと頑張っています。

今後は、病院の理念にもあるチーム医療へ貢献できるよう自己研鑽に努め、苦手分野を克服していきたいです。



医療法人 仁寿会
南野病院

佐藤 恵

回復期病棟に勤務し、リハビリをしながらADLが向上していく患者様の姿が嬉しく思います。

目標のADLに届かない場合、どのようなサポートが退院後の生活に必要なのか、少しでも不安の少ない状態で退院していただけるよう、他職種で相談しながら患者様の笑顔がみられるように頑張っていきたいと思います。



午年生まれの特徴

- 行動力、実行力がある
- 社交的な人気者
- 責任感と独立心が強い
- 話上手で聞き上手
- 新しいことに挑戦する冒険心をもつ



一緒に考え、
実現に向けていきたい新たなビジョン

「看護の将来ビジョン2040」について

2025年6月に日本看護協会が「看護の将来ビジョン2040～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を公表しました。今回、この紙面をお借りし、会員の皆さんと一緒に考えていければと思います。

近年、高齢者のさらなる高齢化が進み、医療と介護の双方のニーズが今以上に増える中、医療と生活の両方の視点で捉えることができる私たち看護職の専門性であると言えます。

新ビジョンでは、2040年の社会の姿をイメージし、2040年に向けた課題を打ち出し、看護が目指すものとして、次の3つを掲げています。

1. その人らしさを尊重する生涯を通じた支援
2. 専門職として自律した判断と実践
3. キーパーソンとしての多職種との協働

看護職は、これまで、目の前にいる「その人」に寄り添い、人と人をつなぐ役割を果たしています。しかし、担い手不足や業務量の多さなどに忙殺され、自分たちが培ってきた素晴らしい看護に価値を見いだせないまま、日々のやるべき業務に没頭していることが多いように感じます。

これからの看護職には、地域に住む人々の最も身近にいる専門職として、その活躍の幅を広げることや専門性としての自律性の確立、そして、これまでの慣習や既存の枠組みにとらわれない発想の転換等が求められているのではないのでしょうか。

看護職一人ひとりが、これから先、「未来の看護の現場」を浮かべながら、看護職自身が「ウェルビーイングな状態」で、自分自身の「看護とは」を問い続けていくことも重要と考えます。

看護職が「自信」と「誇り」を持って、いきいきと働き続けられるよう、この「看護の将来ビジョン2040」を会員の皆さまに一読いただき、次世代に繋げていけるよう、一緒に考え、実現に向け取り組んでいきましょう。

参考：日本看護協会出版「看護の将来ビジョン2040」

看護の将来ビジョン2040

～いのち・暮らし・尊厳を まもり支える看護～

日本看護協会



2040年に向けて看護がめざすもの

※看護職とは、保健師・助産師・看護師・准看護師のこと

その人らしさを尊重する 生涯を通じた支援

社会の変化、医療の進歩に対応しながら、生まれる前から人生の最終段階まで、人生のどの場面においても人々の身近なところで一人ひとりに最適な看護を提供します。

専門職としての 自律した判断と実践

病院・施設・自宅、どこであっても安心して療養ができるよう、看護職が専門的な知識を生かして的確に判断し、その人にとっての最善の支援を行います。

キーパーソンとしての 多職種との協働

それぞれの職種の強みを十分に発揮しあえるよう、看護職が架け橋となって、他の職種とともに人々の健康をまもります。

これからも人々のいのち・暮らし・尊厳をまもり支えつづけるには、
看護職がいきいきと働ける環境整備、多様で柔軟な働き方への転換が大切です。

そのために、日本看護協会は看護職自身のウェルビーイングにも力を注ぎます！



日本看護協会ホームページに
紹介動画が掲載されています。

(<https://www.nurse.or.jp/home/about/vision/index.html>)



HPはコチラから

広報委員取材

助産師職能委員会
による

10.1 (Wed)
九州文化学園
小学校

性教育セミナー

講義にあたって (佐世保共済病院 助産師 森口 祐子)

昨年より講師として学校へ出向き講義を行っています。知りたい情報はすぐ手に入るデジタル世代の子どもたちが、妊婦体験や胎児人形に触れながら楽しく話を聞いてくれています。母親の子宮の中で大切に育てられ生まれてきた事、自己肯定感を高め、自分らしく自身を大切に生きていくことの大切さを少しでも感じて欲しいという思いが伝わる事を願っています。私自身も刺激を受け良い学びになり、このような貴重な機会を頂いた事をとても感謝しております。



取材後記

助産師職能委員会では年間20校を目安に県内小・中・高校にて性教育セミナーを実施されています。

今回は小学生対象でしたが、対象年齢に合うようにわかりやすく丁寧に講義や体験などを交えて実施されていました。児童たちは妊婦体験や胎児模型のふれあいでそれぞれの感想を口にしなが積極的に参加していました。取材に協力していただきありがとうございました。

GOOD
JOB!

地区支部だより

各支部の活動や
お知らせをお届けします

県南支部

支部長 糟谷 操子

新年あけましておめでとうございます。皆様にとって実り多き一年となりますように祈念しております。

さて、県南支部では、10月4日に「看護職の生涯学習について」をテーマに施設代表者交流会を開催いたしました。組織における生涯学習支援に関する新たな学びを得るとともに、施設間の交流を深める貴重な機会となりました。また、11月7日には「2年目看護職員交流会」、11月22日には「ふれあい看護体験」を実施いたしました。「ふれあい看護体験」では、多くの高校生が積極的に看護の疑似体験に取り組む姿が見られ、看護の魅力を伝えることができたのではないかと感じております。さらに、12月6日に開催した「看護実践報告会」では、16演題の実践発表が行われ、看護実践の過程や成果を共有する場となりました。今回は対面形式での開催となり、より顔の見える報告会となりました。今後の予定としましては、1月24日に「看看連携交流会」、また、2月14日には「病院・施設・在宅看護職員交流会」を計画しております。

今後も、看護職の皆様の支援につながる交流会等の企画を進めるとともに、地域の皆様とのつながりを深めてまいりたいと考えております。



▲施設代表者交流会

県央支部

支部長 中尾 理恵子

新年あけましておめでとうございます。本年も皆様とともに新しい年を迎えることができたこと、心より感謝申し上げます。

令和7年7月5日に「看護職の生涯学習」のための施設代表者会議を開催しました。まず最初に木下副会長より看護職の生涯学習を取り巻く現状と国の制度等に関する説明を受け、その後日本看護協会から出されたコンテンツの「教育計画の立案と研修により支援の実践」を拝聴し意見交換を行いました。22名の出席がありましたが皆様からは「スタッフの学びを深めるためには、看護管理者がガイドラインを良く理解して多様な人材を育てる職場環境を作ることが必要」等の意見がありました。また10月18日は2年目看護師交流会(GW)を実施し活発な意見交換がなされました。参加者は30名でした。1年間の苦労や悩みを出し合い、その後事例検討では清潔ケア不足や患者・家族とのコミュニケーションも取れていないなどが出され、今後の目指すべき看護師像としては療養上の世話業務にも目を配り患者やご家族に寄り添い、信頼される看護師を目指したい旨の意見が多数聞かれ、クリニカルラダー1に向かって着実に進んでおられる姿が見えました。



▲2年目看護師交流会

県北支部

支部長 橋本 康代

新年あけましておめでとうございます。

県北支部では、令和7年10月4日(土)に施設職員交流会を行いました。

7施設13名の看護師、介護福祉士の参加があり、「認知症患者の看護、身体抑制しない看護」をテーマに、佐世保市中央病院認知症センター係長、日和田正俊先生にご講義いただきました。講義の内容は、認知症とせん妄について、せん妄やBPSDが出現する原因と、BPSDを予防するための対策についてでした。グループワークでは「身体抑制につながるハイリスク患者を見分ける」を課題に話し合い、活発な意見交換が行われました。抑制を行わない、やむをえず抑制を開始した場合は、解除を目的としたカンファレンスを行うことが重要であると再認識しました。認知症患者の数は、今後も増加が続くと予測されます。本人や家族がかかえる生活課題に対して、医療介護の現場で対応する私たちがより理解者となり、その人らしい生活の維持ができるように支援していきたいと深く感じる機会となりました。



下五島支部

支部長 江口 美子

新年あけましておめでとうございます。

下五島支部は、6月15日の「五島長崎国際トライアスロン大会」にメディカルスタッフとして救護活動を行いました。参加選手582名、救護者56名、重大事故もなく、大会は盛会のうち終えることができました。6月28日には「緩和ケア～患者の希望への関わり～」をテーマに下五島支部交流会を開催し、施設間での地域連携活動など情報交換することができました。8月6日は、長崎県富江病院で「ふれあい看護体験」を実施しました。コロナ禍を経て久しぶりの開催となり、参加した高校生は緊張と期待を抱きながら看護の実際を体験していました。9月9日は、五島市消防本部主催の救急医療週間に伴う「一日救急隊長」行事の依頼を受け、地域の皆様へ血圧測定、健康相談を行いました。また、9月27日は「看護職の生涯学習ガイドライン」—JNAコンテンツ 組織で行う生涯学習支援の基礎知識—をテーマに離島間通配信交流会を開催しました。

今後も五島を盛り上げながら、地域の皆様の健康を支える手助けができるよう活動していきたいと思っています。



上五島支部

支部長 法村 円美

新年あけましておめでとうございます。

上五島支部では、8月に「高校生ふれあい看護体験」を開催しました。看護職を目指す生徒さんや医師、リハビリ、医療事務を目指す生徒さんが参加され、バイタル測定やシーツ交換、血糖測定や点滴作成、防護服着脱にスクラブ試着などを体験し「看護師さんすごい! かわいい!」の声が飛び交っていました。看護師の仕事、魅力についてアピールする機会となり、医療職志望への一助になればと思っています。

研修会は、「皮膚排泄ケアのきほん・スキンケアを見直そう」をテーマに支部交流会を開催しました。高齢者施設からの参加も多く、知識と技術のアップデートはもちろん、なるほどなアイデアも頂き有意義な時間となりました。「看護職の生涯学習ガイドライン・組織で行う生涯学習支援の基礎知識」をテーマとした離島間通配信研修会では、学び続けることの大切さを実感できました。

「まちの保健室」や多様なイベントに参加し地域の皆様と交流を持てる機会も頂き感謝しております。

令和8年は 午(うま)年! 「馬のように駆け抜ける一年に!」と勢よく言いたいところですが、無理せずに自分のペースでトコトコ歩くくらいでちょうど良いかもしれませんね。引き続き、看護の持つ力や魅力を地域の皆様に広く発信して参ります。本年も宜しくお願い申し上げます。



高校生の皆さん!



点滴の準備!

壱岐支部

支部長 末永 美幸

新年あけましておめでとうございます。

昨年9月27日は離島支部交流会:テーマ【看護職の生涯学習ガイドライン】研修を研修センター、木下副会長の御協力を得、開催することができました。コンテンツ視聴、又、看護職の生涯学習を取り巻く現状、支援の情報等を木下副会長の分かり易い説明でより深く理解ができ充実した研修となりました。10月15日は支部交流会:テーマ【感染防止対策】研修を実施しました。参加者43名で、感染防止の基本の徹底・環境整備の大切さを再認識しました。

2026年は丙午の年です。ひのえうまの年は60年に1度めぐってきますが情熱的で勢いのある年とされています。本年も看護の魅力をより多くの方にお伝えしていければと思っています、本年もよろしくお願い致します。



対馬支部

支部長 福島 利恵

あけましておめでとうございます。

皆さん、カンフォータブル・ケアという言葉をご存じですか?

昨年の支部交流会では、カンフォータブル・ケア普及協会の南敦司氏を埼玉県からお招きし、「カンフォータブル・ケアで変わる認知症ケア」をテーマにご講義いただきました。病院の看護師だけでなく、介護施設等からもたくさんの参加(会員・非会員54名)があり、嬉しかったです。南氏の心地良い関西弁と実践を交えた講義は、参加者の笑いが絶えず、休憩なしの3時間があっという間に過ぎました。認知症の人に接するカンフォータブル・ケア技術10項目①いつも笑顔②いつも敬語③視線を合わせる④優しく触れる…など、日頃の自分を振り返る機会となり、ケアはチームとして取り組むことが大切とも学びました。対馬が「カンフォータブル・ケアの島」と呼ばれるくらい普及できればと思いました。



第1回 施設会員代表者・看護管理者等交流会

令和7年9月30日

令和7年9月30日（火）、第1回「施設会員代表者・看護管理者等交流会」をハイブリッドで開催しました。来館23名（15施設）オンライン37名（23施設）の計60名（36施設）の参加のもと開催することが出来ました。看護協会からの情報提供、労働環境委員会からの調査結果報告、4名の方に「就業継続が可能な看護職の働き方～多様で柔軟な働き方の提案～」について施設での取り組みを発表していただきました。

内容は、現場で働く看護職に焦点を当てた「就業継続を促す働く場の提供」「プラチナナースの働き方」「カスタマーハラスメントに対する組織対応策」「看護の専門性を活かす取り組み」など多岐にわたり、終了後のアンケートでは全員の方から「参考になった」との回答をいただきました。

今回からオンライン参加者も参加できるように従来のGW形式からシンポジウム形式に変更したところ「シンポジウム形式がオンラインも情報共有出来るのでありがたい。」「オンライン参加者が多いのでシンポジウム形式が良い。」「司会者の進行により違う視点での意見が聞けるので良い。」などシンポジウムの評価とともに「県協会や労働環境委員会からのアンケート結果の情報提供があり、とても良かった」など、情報共有の場の提供を今後も期待する意見を多く聞くことができました。

お忙しい中、快くお引き受けいただいた4名の発表者の皆様、交流会にご参加いただいた各施設の代表者の皆様、ありがとうございました。



公益社団法人 日本海員掖済会
長崎掖済会病院
副院長兼看護部長
高瀬 江利子 氏



医療法人 光善会
長崎百合野病院
看護部長
平山 佐代子 氏



医療法人 伴帥会
愛野記念病院
看護部長
岡田 美佐子 氏



国家公務員共済組合連合会
佐世保共済病院
看護部長
山崎 純子 氏

労働環境委員会より
「就業継続可能な職場について」調査結果報告



労働環境委員長 岩本 ルリ子 氏



シンポジウム形式での意見交換、質疑応答を行いました

第2回 施設会員代表者・看護管理者等交流会

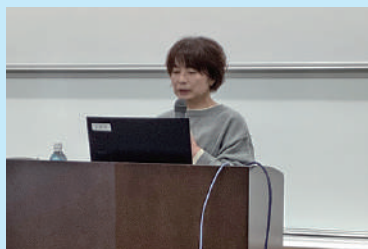
令和7年10月21日

令和7年10月21日（火）、第2回「施設会員代表者・看護管理者等交流会」をハイブリッドで開催しました。来館22名（12施設）オンライン52名（33施設）の計74名（42施設）の参加のもと開催することが出来ました。行政からの情報提供、各病院施設、介護医療院、訪問看護ステーションから3名の方に「看護DXやICTを含む看護業務効率化に向けた取り組み」について取り組みを発表していただきました。

内容は、行政から「2040年を見据えた課題認識と方向性について」「DX導入の実際」として3施設から「チームコンパス」「眠りスキャン」「コールマット」「インカムトランシーバー」「超低床ベッド」「五島市の取り組みとしてモバイルクリニック事業」「AI」「音声認識」など「DXがもたらす可能性」について経費やスタッフの反応、稼動～定着するまでの期間など、質問者の疑問に対して詳細に答えていただきました。終了後のアンケートでは全員の方から「参考になった」との回答をいただきました。

参考になった点は、「他施設での取り組みから自施設に導入できるか検討する機会となった。」「DX導入の実際を知ることが出来た」「現場の声が聞けた」「業務負担や費用の面など参考になった」「自施設でも次導入したい機器のヒントをいただけた」「知らない機器がたくさんあって参考になった」「看護DXの最新事例を聞くことができ感銘を受けた」など、主催者も「目からウロコ」の驚きと感動の交流会でした。

お忙しい中、快くお引き受けいただいた3名の発表者の皆様、交流会にご参加いただいた各施設の代表者の皆様、ありがとうございました。



特定医療法人
光晴会病院
副院長兼看護部長
岩田 潤子 氏



医療法人 和光会
介護医療院 恵愛荘
師長
小柳 身幸 氏



訪問看護ステーションせいな
代表
岩田 将吾 氏

行政からの情報提供



長崎県医療人材対策室
看護師確保推進班
参事 濱崎 由紀 氏



シンポジウムでは多くの質問があり、有意義な意見交換となりました

2025

看護への道 フェア

日時

令和7年8月5日(火)

参加者

130名

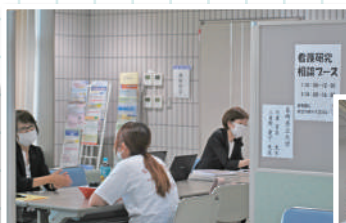
(高校生(66)、中学生(21)、
小学生(5)、教諭(1)、
一般(1)、保護者(30)、
その他(6))



取材後記

小学生から高校生、保護者など多数の参加がありました。看護の分野で活躍される方々と交流し、看護の実際を知ることさらに興味を持たれた方も多かったです。参加していただきありがとうございました。

長崎県看護学会学術集会



日時
令和7年8月30日(土)

参加者
256名

学会賞受賞

おめでとうございます



1群	大村市医師会 在宅医療サポートセンター	入里 恵子	A市におけるACP手びき(市内共通仕様)の配布と周知活動の効果 —関係事業所への周知活動後のアンケート結果から—
2群	公益社団法人長崎県看護協会 労働環境委員会	堤 美保	「就業継続可能な職場について」のアンケートを実施して
3群	独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院	磯部 虹歩	褥瘡への乳房セルフケア意識向上を目指す支援
4群	国立大学法人 長崎大学病院	津上 愛子	放射線治療室看護師と病棟看護師の連携向上を目指す —放射線治療に関する知識と不安の実態調査—
5群	特定医療法人 光晴会病院	林 莉花	腹腔鏡下胃腸部ヘルニア修復術に関わる看護師役割の見直し —2人体制の取り組みに向けて—
6群	国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院	中倉 有紀	誤嚥リスクと口腔内環境の低下のある患者の就寝前オリーブオイル塗布の効果 —口腔内細菌数と口腔内環境の変化—

令和8年度長崎県看護協会 看護研究助成金募集のご案内

本協会では、長崎県内における看護職者の資質の向上に関する事業の一環と位置づけ、看護研究のレベルアップを図り、看護の質を高めるために、看護研究活動を支援します。

助成額

- ①会員については1件当たり20万円を限度
- ②非会員については助成対象経費の1/2以内で、10万円を限度とする

応募方法

期間内に、下記応募書類をそろえて郵送してください

応募書類

- ①看護研究助成金交付申請書(申請様式1号)
- ②看護研究計画書(申請様式2号)
- ③収支予算書(申請様式3号)

研究報告

- ①研究報告書を当該年度3月31日までに会長宛に提出する。
- ②長崎県看護学会誌JNSNに投稿する。

事業要領、様式は、ホームページ>用紙ダウンロードページからダウンロードできます。

応募期間

令和8年 令和8年
1月5日～2月27日必着

ホームページは
こちらから



お問い合わせ・申込提出先

〒854-0072 長崎県諫早市永昌町23番6号 公益社団法人長崎県看護協会 総務部 看護研究助成金 係
TEL: 0957-49-8050 FAX: 0957-49-8056 E-mail: soumu@nagasaki-nurse.or.jp

病院紹介

Hospital introduction

独立行政法人国立病院機構

長崎医療センター



当院は国立病院機構が運営する全国140の病院からなる1つで、病床数643床の3次救急医療施設となります。また、長崎県のドクターヘリ基地病院であり、高度救命救急センターを有し、24時間全ての救急患者に対応しています。

国立病院機構の中では13の高度総合医療センターの一つであり、がん医療、成育医療、脳卒中やてんかんの脳疾患、肝疾患などの専門医療を行っています。

さらに、臨床研究センターを有し、看護師特定行為の指定研修機関でもあり、全職種を対象とし教育研修や臨床研究にも力を注いでいます。

看護部では、急性期や重症の患者さんが多いため、臨床でのOJTを強化し看護職員の実践能力の向上に努めています。さらに、「その人がその人らしく」という看護理念のもと、患者さん一人ひとりの生活信条を大切に、専門的な急性期医療の時点から患者さんの今後の生活を視野に入れた看護の提供を目指しています。また、院内には、専門看護師や認定看護師、さらには診療看護師や特定看護師が多く在籍し、患者さんのケアや職員の支援を行っています。



～長崎医療センターのシンボルマーク～
国際的な視野での医療拠点（ブルー）と
離島などの地域に足場を置く心暖かい医療（ピンク）という二つの翼で長崎の地（N）より飛び立つ水鳥をイメージしています。

患者さんとの対話を大切にしています



BFH, BFNICUの認定施設です



新人看護師の研修場面です

看護師特定行為研修修了者が各フロアで活躍しています



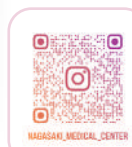
専門看護師がOJTやケアのサポートを行います



当院のマスコットキャラクター「ヘリドク太くん」



看護部
Instagram



ドクターヘリ基地病院として
離島の医療を支えています



診療看護師（JNP）の
紹介です

会員の広場 テーマ：私の推し

40代、女性
「私の推し」うちのわんこ

ゴールドンレトリバーのロンです。
私がマジ泣きして
帰ったときお腹を
見せて潜り込んで
きてくれた優しい
わんこです。



会報 nna への投稿募集！

会員の皆さんの声を会報 nna に投稿してみませんか？
広報出版委員会では、会員の皆さんのお便りを募集しています。
抽選で2名様に、かんごちゃんのポーチをプレゼントします。
※当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

【テーマ】私の推し

[掲載紙] 会報 nna 1月、5月、9月発行

[投稿方法] ①または②の方法で投稿してください。

①右記QRコードを読み取って、ご入力をお願いします。

②下記メールアドレス宛に、氏名、会員番号、年齢、性別、メールアドレス、投稿内容（400字程度）を入力して送信してください。写真などの添付も可能です。

匿名で、年代と性別を掲載します。 メール：nna@nagasaki-nurse.or.jp

